茨城桜友

日本大学

発行・編集
茨城桜友
編集委員会

発行責任者
礒崎　強

茨城桜友第二十九回総会開催

活動のマンネリ化打破 更なる茨城桜友の充実を

茨城桜友第二九回総会は平成二六年八月二四日（日）笠間市のホテル・イオ・アルフェラッツ内「ものみ茶屋」に於いて開催された。今回も観光と芸術、豊かな自然に恵まれた茨城県中央部に位置する笠間市の会場で開催した。

会場に本会のシンボル旗「茨城桜友」を掲げ午前十一時、大和田副支部長の司会進行で始まった。白土顧問の指揮で校歌斉唱し、礒崎支部長の挨拶、その後、議長に赤津顧問を選出し議事に入る。支部長から平成二五年度の事業報告、大和田副支部長から会計報告、菅原監事から監査報告があった。

続いて平成二六年度の事業計画案が礒崎支部長から提案され承認された。

↑礒崎支部長　（ 役員会資料配布作業 ）

総会の主な協議内容

①新会員の勧誘・卒業生に支部会報、入会案内等を送付。②関東ブロック栃木大会の参加、支部長以下四名参加。③茨城桜友会報の充実と会員の投稿について。④来年度の総会開催場所について従来通り笠間市で実施。⑤会員への総会案内とその返信状況（報告）

予定していた議事はすべて終了。山田幹事の閉会の言葉で議事終了。その後、場所を変え和気藹々とした雰囲気のなか食事会で親睦を深めた。

写真←総会会場にて参加者

最後に記念撮影写真を撮り再会を約束し散会した。（記事　大和田）

広げたい桜友の輪

支部長　礒崎　強

ご挨拶

日頃から茨城桜友会に対しまして深いご理解とご協力を賜り誠に有難うございます。

代表してお礼申し上げます。

平成二五年八月の総会において再度支部長を仰せつかりこれといっての成果を上げることなく二年が過ぎてしまいました。この間、現状より一歩でも前進をと進めてきましたがなかなか思うようにはいきませんでした。基本的には多くの会員の参加がないと成しえません。

広げたい親睦の輪

桜友会では、これまで一部の卒業生が中心となって活動を行って参りました。役員会で会員の輪を広げ、会員相互の親睦を深めるべきとの意見が多く出されました。このような経緯を踏まえ現在、数年前から本部から届いた名簿をもとに入会案内、支部会報、本部発行の会報、入会返信ハガキなどをお届けしています。しかし、現実問題として入会者、総会等の参加者は多くありません。

今後の取り組み

①新規会員の加入を図り桜友の輪を広げたいと思います。②会報「茨城桜友」を会員に発送し情報交換の場となるようにします。③外部行事本部、関東ブロック総会等に積極的に参加することが必要です。

今後も問題点を克服して参りたいと思います。

最後に皆様のご活躍とご健康を心からご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

関東ブロック総会栃木大会に参加

栃木県知事の特別講演

栃木支部主催の関東ブロック第三五回総会は平成二六年一月九～一〇日栃木県「たかはら」で開催された。茨城からは支部長礒崎、各役員大和田、井上、小松崎、養田の五名が参加した。前回大会から開催日を土日から日月に変えた。参加者も増え、福田富一栃木県知事（日大校友会員）の講演が行なわれ第三五回記念大会にふさわしく盛会に開催された。

関東ブロック総会栃木大会は、栃木県・鬼怒川温泉地「たかはら」で四七名の参加者をえて開催された。

総会前に顧問・相談役会が開催され関ブロ副会長岡野の代理井上と支部長礒崎が出席した。

総会は栃木県豊田副支部長の司会三尾谷副支部長の開会の言葉で始まり、校歌斉唱、高松利典県支部長の主催者挨拶、金子関東ブロック長の挨拶に続き、白戸校友会会長の祝辞があった。

その後、高松栃木県支部を議長に選出し、各都県代表が支部の特徴、昨年度の活動報告、本年度の事業計画等が報告された。

本部活動報告では本部副会長の肱岡堅一氏が報告した。

次回の開催は埼玉県と決定し、これら全会一致で承認された。最後に閉会のことばを栃木県副支部長の閉会のことばで終了。

今回は記念大会として、栃木県知事の福田富一氏から「人として生きる」と題して講演を頂いた。

最後に同会場で参加者全員の集合写真撮影を行った。

その後、天然温泉の温もりで、心と身体をリフレッシュした。そして夕食を兼ねた懇親会では新鮮な魚介と酒を頂き校友との会話をしながら至福の時間を過ごした。

二日目の見学では大正天皇のご静養のため造営された旧御用邸で明治期の中で最大規模の木造建築である日光御用邸記念館見学、百地蔵がある含満ケ淵を散策し解散した。

記事　礒崎

写真⇒日光御用邸記念館庭にて参加者

左より　井上　養田　　礒崎　小松崎　大和田

校友シグナル

✪「山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい」夏目漱石「草枕」の冒頭である。

✪最近のヒット曲「峠越え」の歌詞「先に出すぎりや世間が叩く、遅れて歩けば笑われる、あとに戻れぬ人生は、苦労我慢のいばら道、夢がさえの峠越え」と人生応援歌。

✪人の世は、窮屈、苦労、いばら路、嘲笑、と現実は厳しい。世間を気にせず、義理や人情に無関心で生きていくことは至極の業。

✪思うようにことは進まず、懸命に頑張っても成果なし。情にはほだされ、他人と比較すれば惨めになるし、向かい風にも流される。

✪一寸先は何が起こるかわからない。時間だけは確実に奪われ、誰にも止めることは出来ない。人はこの世に誕生すれば必ず死に至る。この重圧を背負い誰も生きてゆく。

✪一人暮らし生活は望まないが今から心の準備が必要。世間を捨て、過去を捨て一人で生活できる個人の力を養う事は必要である。一方茨城桜友の連帯感を構築する必要性がここにある。

✪全国的に人口減少が進行している。茨城でも例外ではない。過疎化、高齢化、核家族化が進行している。この現実を踏まえれば会員の輪を広げて発展させるしかない。

✪福田栃木県知事は日大夜間部で学んだ努力の人。特別招待記念講演では栃木県民のため一生懸命トップセールスしていた。情熱を込めた訴えは意欲的で素晴らしかった。末永く栃木県民のため活躍して欲しい。

✪各人が情熱を持って、行動することで家庭、職場、地域もいきいきする。人生は山あり谷あり、夢も希望もある。明日をめざして生きてゆく！

これが桜友の心いき。

H・I